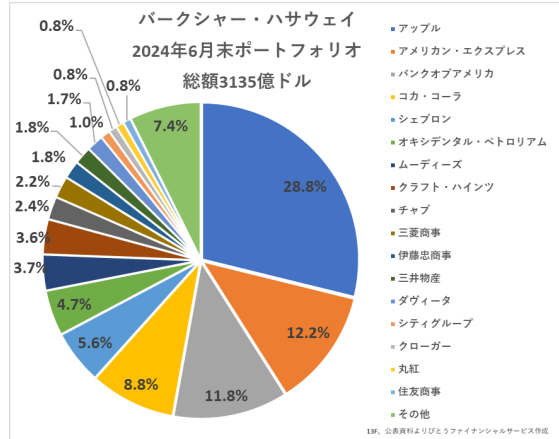
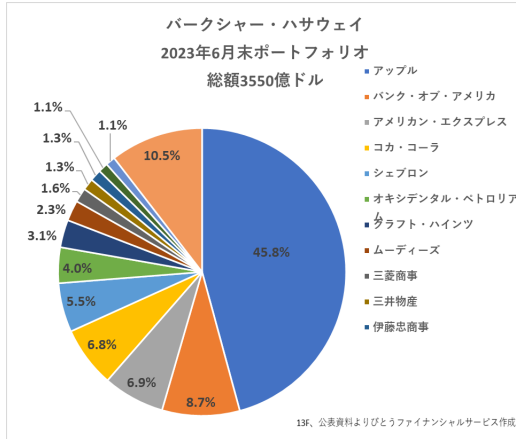


ATTENTION

バフェットがアップルを大量売却、その意図は？



バフェットが、アップルを大量に売ったのには、驚きました。5月の株主総会で、アップル売りが明らかになり、大騒ぎになったのですが、もう収まるかと思っていたら、4～6月に、さらに、その3倍以上を売ったのです。昨年9月の保有株数は、実に9億株超。それが、現在は4億株ちょうどに減りました。アップル売却前の昨年6月と、売却後の今年6月現在のグラフで比較してみると、45.8%も保有していたアップルが、株価の上昇があっても、28.8%に急減しました。その間の売却額は、私の計算では実に1040億ドル、15兆円超。バフェットは、この売りでいくら儲けたか。試算すると、6倍ほどで売り、860億ドルほどの利益を獲得しています。アップルの買いコストは、34.2ドル程度。現在229ドル。現在も4億株を保有し、実に6.7倍になっています。株とは、こうして儲けるものだという典型例です。現在では、アップルの株価収益率(PER)は30倍を超えていて、いわゆる花形成長株と見られていますが、バフェットが買い始めた2016年には、PERは12倍台。いわゆる割安株だったのです。皆があまり注目しなかったときに、バフェットは、アップルの将来性を見抜き、2年程度をかけて、大量に仕込んだわけです。そして、今回の売り。バフェットの売りの意図は、おそらくアップルが割高になってきたと考えているのでしょう。果たして、今後のアップル株の動向は？

COLUMN

脳は死ぬまで成長する

私たちがぜひ知っておくべきことが書かれた書を紹介しましょう。

- ・脳細胞は、生まれてから死ぬまで、使えば成長する。知的活動を続ければ、脳の重要なエリアで、脳細胞が拡大する。脳は活動や思索のたびに変容し、その変容が脳を強化する。そして、それは年齢や開始時期によらず、当てはまる。
- ・学び続ければ、知的関心が強ければ、また運動をすれば、認知症のリスクは少なくなる。脳の神経細胞が増え、それらの結節や回路が増える。そうしなければ、脳の神経ネットワークはそのまま。
- ・齢を取ればとるほど、新しいことを学ぶ能力は拡大する。そして脳は使えば使うほど、明敏になる。
- ・何か他のことをしようとする前に、今してきたことを脳が整理して格納できるように、少し待つ。脳にも休息が必要だ。
- ・モーツァルトを聴くことは、思索や論理力を強化する。たとえば、「2台のピアノのためのソナタ」。感情的なことだけでなく、知性に訴える力を発する。毎日数分でもモーツァルトの音楽を聴こう。
- ・脚の筋肉をしっかりと付けることは脳の機能を働かせるのに大事。
- ・ストレスは脳によくない。ストレスを少なくするよい方法は、呼吸をゆっくりすること。ストレスが起きないようにふるまうことも大事。
- ・脳が最大限に働くようにするためには、十分な安らかな睡眠をとること。睡眠不足は、心理的機能を落とす。
- ・10～20分の昼寝は注意力を回復し、パフォーマンスを強化し、間違いや事故を少なくし、利益をもたらす。昼寝は、脳が最良の状態に働く心理的エネルギーを回復させる。

Mozart's Brain and the Fighter Pilot, Unleashing Your Brain's Potential

MARKET

	(8月末)	(7月末比)
日経平均	38,647.75円	-454.07円 (-1.16%)
NYダウ	41,563.08ドル	+720.29ドル (+1.76%)
米ドル	146.25円	-3.75円 (-2.50%)

私の書棚より

『これが一生だったのか』 わたしは死に向かって言おう。『よし！ それならもう一度』と

-「ツアラトウストラ」ニーチェ

日銀の日本株保有の塩漬けは許されない

8月17日の日経に、『日銀ETF、当面「塩漬け」?』という記事が出ていました。「やはりか、むずかしいからな」、一方で「このままだと、重症化する病いを放っておくことになる」という危惧を持ちました。「こんなバカなことをしなければよかったのに」といっても、すでに遅し。

日銀は、7月末の評価額で73兆円の日本株を保有し、市場全体の8.9%を占めています。買付額は37.2兆円で、ほぼ2倍になっています。ここで改めて、日銀が保有することの問題点を指摘しましょう。

1. 株主権を行使しないで、ガバナンスの欠如を促進

日銀が買っているのは、日本株ETFなので、日銀は株主権を行使しません。ETFは運用会社が行使します。日銀が直に株式を保有していれば、保有企業から議決権行使書が送られてきます。ETFか直接保有かで、議決権行使の主体が大きく変わります。ところが、中央銀行たる日銀が、企業に議決権行使をするのはいかかなものかということで、ETF買いになったということです。日銀が実質的に20%超の株式を保有したり、筆頭株主、上位10位以内の大株主となる企業が軒並み出ています。株主権を行使しないためにETFを買ったとなれば、即、株主によるガバナンスの欠如という重大問題が出てきます。

2. 市場に出回る株が少なくなり、株価の振れが拡大

日銀が、実質9%近くの日本株を塩漬けにすると、市場に出回る株が少なくなるので、株価の振れが大変大きくなります。「9%近く」というのは、相当な数字です。

今年8月初めに、日経平均が3日で19.5%も下がったのは市場に出回る株が少ないことが多分に影響していることが考えられます。この時の下げが、他の市場に比べて突出していたという背景には、日銀が、日本株を大量に抱え込んでいることが要因としてあると考えるべきです。カジノ市場の陰の主役ということです。

3. 日銀がETFを持ち続ければ、国民負担が増々ふえる

ETFには、信託報酬という費用が伴います。一部報道によりますと、2022年11月時点で、すでに3,000億円の信託報酬を日銀は負担していたということです。信託報酬は、保有する分の評価額に応じて変動するので、買付をほぼ終了後、日経平均は50%ほど上昇していますから、どんどん膨らむ信託報酬を払い続けているわけです。そして、この費用は、株を直接持っていれば、一切かかりません。株主権を行使しないためにETFを買ったのですが、その見返りは、巨額の費用を払い続けるというわけです。現在、日銀は、累計でどれだけの信託報酬を払ってきたか、開示するべきです。

役人、政治家お得意の先送りの空気が漂っています。「臭いものには蓋」。こういうあいまいで、誰も火中の栗は拾わないという姿勢は、よくありません。率直に言えば、日銀は「その程度のレベルの中央銀行か」と、世界の金融市場から冷ややかに見られ、到底国民の信認を得られるはずがありません。

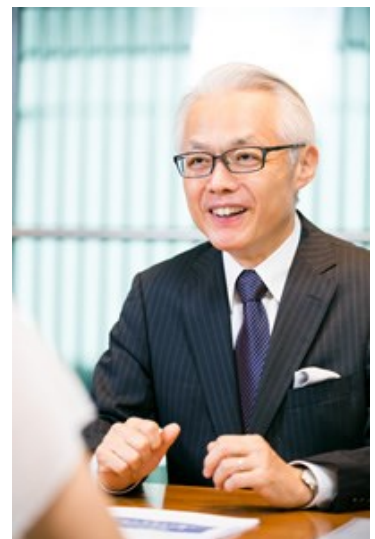
まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に勧めるのではなく、お客様にもっとも適した金融商品をお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp